

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマサキ 山 崎 マキコ 眞 紀子	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	本講座は、明治期から現代までの近現代文学を学ぶことで、豊かな知識を養い、論理的かつ批判的思考力を身につけることを目的とする。学ぶ内容は具体的には以下のとおりである。 I. 小説の書かれた時代を理解し、当時の政治・経済・文化の交錯の上に成り立っていることを自ら調べて学ぶことができる。 II. 小説を読むうえで、断片的な出来事がどのような時間配列のもとで物語が構成されているかを自ら考えることができる。 III. 日本近現代文学作品をレトリックや表現の緻密さに留意し、分析的に読む力を自ら切り開くことができる。 IV. 以上の目的を踏まえて、自らが立論し論文としてまとめることが出来る。		
到達目標	【一般目標 (GIO)】 日本近現代文学作品に書かれている内容を正確に理解し、書かれた時代背景、文化を把握し、なぜその場所、時代、言葉が選ばれているのか一つ一つ丹念に掘り下げて考察する力を身につける。それを論文形式でまとめる力を修得する。 【行動目標 (SB0s)】 多種多様な文学作品に触れることで、語彙力を増やし、人に正確に、かつ分かりやすく伝えるための言語の力を応用する力を修得する。(知識) 言葉の配置や文体、比喩を駆使して、論理的かつ人を引き付ける文章を書く力を身につける。(技能)		
学修方略 (方法)	【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】 ・manaba folio のコレクションを利用して、インタラクティブな個別指導を受ける。 ・図書館、インターネットで自立的に論文を検索して、レポートを作成する。 【学修方略 (LS)】 教材を熟読し、先行研究論文を読み、そのうえで自分の読みのオリジナリティの上に立ち、自らの解釈を論理的に説明するレポートを 3000 字程度で書いて提出する。添削を受けて完成させる。 【学修時間】 在宅学習では各レポート課題につき完成までに以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要する。 ・教材の学修：教科書にある小説を三度繰り返し読む。先行研究論文を探し、読む。20 時間 ・レポート執筆時間：15 時間 レポート推敲学修（教員の添削指導および最終稿の完成を含む）：10 時間		
スケジュール	前期：6 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 (1) の初稿を提出。 7 月 10 日までに教材 1 のレポート課題 (1) の最終稿を提出。 8 月 5 日までに教材 1 のレポート課題 (2) の初稿を提出。 前期提出期限までに教材 1 のレポート課題 (2) の最終稿を提出。 後期：10 月 10 日までに教材 2 のレポート課題 (1) の初稿を提出。 11 月 10 日までに教材 2 のレポート課題 (1) の最終稿を提出。 12 月 5 日までに教材 2 のレポート課題 (2) の初稿を提出。 後期提出期限までに教材 2 のレポート課題 (2) の最終稿を提出。		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	教材の精読と理解 30% 自らの論説の妥当性と説得力 30% 学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%
	観察記録	20 %	メール、manaba 等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうかを評価する。
履修者への要望	基本教材に掲載されている作品は、なるべく多く繰り返し読むこと。レポート作成にあたっては、大学図書館や国文学研究資料館のHPやCiNiiなどのデータベースを用いて参考文献や先行研究論文を検索して読解しすること。国立国会図書館をはじめとする公共図書館、場合によっては駒場にある日本近代文学館などの専門図書館を活用し資料の入手につとめるなどして、多くの研究論文に目を通すことが望ましい。そのうえで自分が気付いた「発見」を土台にして、着想を発展させて立論し、客観的に論証できるように努める。添削を受け、再度再考し、完成度の高いものを仕上げてほしい。		

【レポート課題】

基 本 教 材 1	
教材の概要	著者名： 東郷克美・高橋広満編 教材名： 『〈異界〉文学を読む』（鼎書房、2017年2月）ISBN978-4-907282-29-5 2000円+税
	〈異界〉をキーワードにして編まれた、15人の作家の短編小説が省略なく全編掲載で載っている。明治20年代から始まる明治期の文学作品、大正期、戦前・戦後の昭和の15編の短編小説を理解しやすいように解説も施され、先行研究リストも記載されている。
参考図書	『日本国語大辞典』（全13巻、小学館、2006年4月）などで、適宜、言葉の意味と用法を調べ、作家案内や関連事項については日本近代文学館編『日本近代文学事典』全六巻（講談社、1978年3月、WEB版も適宜準備中）などの文学事典などを参照にすること。
履修上のポイント	日本近代文学を精緻に読みこなすために作品に多く触れてほしい。教材は優れた短編作品が厳選されている。少し難解に思ったとしても何度でも繰り返し読むことで、作品の意味はおのずから通じてくる。解説や参考文献リストも参照して理解を深める一助とすること。作品を精読し分析して問題を発見し、それをレポートで注を付けきちんとした文章でまとめる。助言と添削を受け、バージョンアップを図っていくことが履修上ポイントである。
レポート課題1	教材に掲載されている泉鏡花、永井荷風、佐藤春夫、芥川龍之介、谷崎潤一郎、梶井基次郎の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について2000字～3000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのかに留意すること。
レポート課題2	教材に掲載されている夢野久作、江戸川乱歩、太宰治、萩原朔太郎、岡本かの子、井伏鱒二、中島敦、川端康成、井上靖の作品の中から1作品を選び、作品にこめられた〈異界〉の意味について3000字～4000字で論じなさい。 留意点： 作品は〈異界〉を通じて、何を表現したかったのか、また語り方にも留意すること。

基 本 教 材 2	
教材の概要	①村上春樹『若い読者のための短編小説案内』（文春文庫、2004年）ISBN4-16-750207-0 448円+税 ②吉行淳之介『原色の街・驟雨』（新潮文庫、2014年）ISBN4-10-114301-9, 520円+税 ③安岡章太郎『ガラスの靴 悪い仲間』（講談社文芸文庫、2014年）ISBN4-06-196053-9 1100円+税 ④小島信夫『アメリカン・スクール』（新潮文庫、2008年）ISBN978-410-1145013 693円税込 ⑤庄野潤三『プールサイド小景・静物』（新潮文庫、2018年）ISBN4-10-113901-6, 438円+税 ⑥村上春樹『女のいない男たち』（文春文庫、2016年）ISBN978-416-790708-2, 650円+税
	①は戦中に青年期を過ごし、従軍経験を持ち、戦後数年してから作品を発表し始めた「第三の新人」と文学史上言われている作品群を論じたもので、村上春樹がアメリカの大学院で授業を行った講義録をもとにした小説案内。論じられた小説は②③④⑤のテキストに収められている。
参考図書	江藤淳『成熟と喪失 “母”の崩壊』（講談社文芸文庫、1993年10月）
履修上のポイント	日本現代文学を精緻に読みこなすために、作品に多く触れてほしい。教材①は戦後（1949年）生まれの村上春樹が「戦後」社会を考えていくうえで、戦中に青年期を過ごし、応召され従軍経験を持つ「第三の新人」の短編作品を厳選し、解説したもの。村上がアメリカ滞在中に教鞭を執った講義録が元となっている。レポート課題の大枠の資料教材。村上春樹がなぜ彼らを選んだのか考察を加えつつ、4人の作家・作品の特徴を捉え、文学史に残っている意味を考察してほしい。
レポート課題1	教材の概要①で取りあげられている小説を③④⑤の中から任意に一作品を選び、作品の読みどころを序、本論（3章仕立て）、結論の構成で、3000字程度で論じなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない） 留意点： この作品の持つ深層を掘り下げて捉えること。
レポート課題2	教材の概要②③④⑤⑥に収録されている短編から一つ選び、何か視点を決めて3章仕立てで3000字～4000字で作品論を書きなさい。（多少の字数不足およびオーバーは構わない） 留意点： 前期で学んだ日本近代文学作品群は主に戦前の作品群であったが、後期は戦後であることに留意し、法制度や社会制度が大きく変わった後であることを留意すること。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品, 101 頁までの作品を読む 1
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品, 101 頁までの作品を読む 2
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の前半作品, 101 頁までの作品を読む 3
第 4 回	教材の学修：基本教材 1 のレポートを書く作品を 1 つ選び、参考文献を読む。
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削を受けて完成稿作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品, 232 頁までの作品を読む 1
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品, 232 頁までの作品を読む 2
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品, 232 頁までの作品を読む 3
第 11 回	教材の学修：基本教材 1 の後半作品の中から、レポートを書く作品を 1 つ選び、参考文献を読む。
第 12 回	レポート構成を決め、参考文献からの引用部分などを決める。
第 13 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2：添削を受けて完成稿作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 の①を読む。
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 の③を読む。
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 の④を読む。
第 4 回	教材の学修：基本教材 2 の⑤を読む。
第 5 回	レポート課題 1：レポート作品を選び初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：添削を受けて完成稿作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 2 の②を読む。
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 の⑥を読む。
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 の②～⑥の中からレポート作品を選ぶために読む。
第 11 回	教材の学修：基本教材 2 の後半作品の中から、レポートを書く作品を 1 つ選び、参考文献を読む。
第 12 回	レポート構成を決め、初稿を作成
第 13 回	レポート課題 2：初稿の添削を受けて修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：修正稿の添削を受けてもう一度修正稿を作成
第 15 回	レポート課題 2：完成稿作成